

## 8. 環境影響評価の項目

環境影響評価の項目は、図 8-1 に示す手順に従い、会場事業計画の内容を基に環境に影響を及ぼすおそれのある環境影響要因を抽出し、地域の概況及び社会経済情勢等を勘案して選定した。

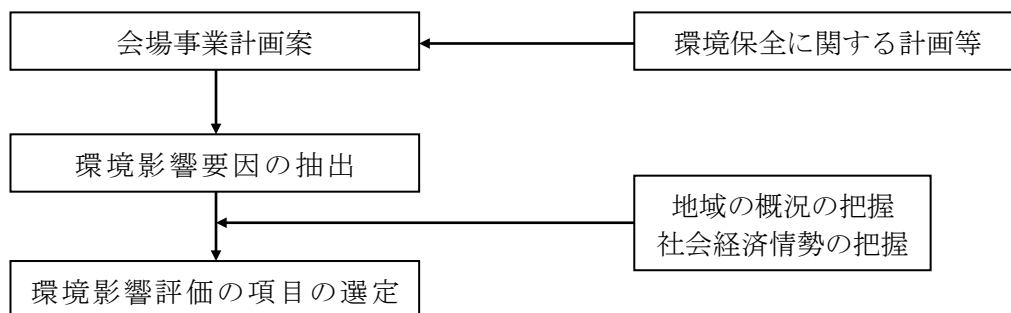


図 8-1 環境影響評価の項目の選定手順

環境影響要因は、東京 2020 大会の開催前、開催中及び開催後について、表 8-1 に示すとおり設定した。東京 2020 大会の開催中における大会の運営等については、現時点では具体的な計画が未定である。このため、本評価書案では、表 8-1 に示す環境影響要因のうち、計画の具体性の高い環境影響要因を対象とすることとし、大会の開催中に係る環境影響要因は対象としなかった。これらの大会の開催中に係る環境影響評価は、今後の計画の熟度に応じて、改めて環境影響要因の抽出及び環境影響評価の項目を検討し、別途実施する予定である。

表 8-1 抽出した環境影響要因

区分	環境影響要因		内容
開催前	恒久施設	施設の建設	掘削工事、躯体工事等に伴う影響
		工事用車両の走行	建設工事のうち、工事用車両の走行に伴う影響
		建設機械の稼働	建設工事のうち、建設機械の稼働に伴う影響
		建築物の出現	建設工事終了後の建築物の出現や建築物の存在に伴う影響
	仮設施設	施設の建設	掘削工事、躯体工事等に伴う影響
		工事用車両の走行	建設工事のうち、工事用車両の走行に伴う影響
		建設機械の稼働	建設工事のうち、建設機械の稼働に伴う影響
	建築物の出現	建設工事終了後の仮設施設の出現や仮設施設の存在に伴う影響	
開催中	競技の実施	競技の実施に伴う影響	
	大会の運営	大会開催中の関係車両の発生集中交通、会場設備等の稼働、その他大会の運営に伴う影響	
開催後	仮設施設	解体工事	東京 2020 大会の仮設施設の解体工事に伴う影響
		工事用車両の走行	解体工事のうち、工事用車両の走行に伴う影響
		建設機械の稼働	解体工事のうち、建設機械の稼働に伴う影響
	恒久施設	設備等の持続的稼働	東京 2020 大会後の施設の継続的利用に伴う影響

注) 網掛けは、本評価書案では対象としない環境影響要因を示す。また、本施設は仮設施設であるため、恒久施設に係る環境影響要因については、想定されない。

選定した環境影響評価の項目は、表 8-2 (1) 及び(2) に、選定した理由は、表 8-3 に、選定しなかった理由は、表 8-4 (1) 及び(2) に示すとおりである。

表 8-2(1) 環境影響要因と環境影響評価の項目との関連

環境影響評価の項目	予測事項	環境影響要因	区分		開催前		開催中		開催後			
			施設の建設(恒久除く)	工事用車両の走行(恒久除く)	建設機械の稼働(恒久除く)	建築物の出現(恒久除く)	競技の実施	大会の運営	解体工事	工事用車両の走行	建設機械の稼働	設備等の持続的稼働
環境項目	主要環境	大気等	・ 大気等の状況の変化の程度		○				○		○	
			・ アスリートへの影響の程度									
		水質等	・ 水質の変化の程度									
	・ アスリートへの影響の程度											
	土壌	・ 土壌汚染物質の変化の程度										
		・ 地下水及び大気への影響の可能性の有無										
		・ 汚染土壌の量										
	生態系	生物の生育・生息基盤	・ 生物・生態系の賦存地の改変の程度									
			・ 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度									
		水循環	・ 地下水涵養能の変化の程度									
			・ 地下水の水位及び流動の変化の程度									
			・ 湧水流量の変化の程度									
		生物・生態系	・ 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度									
			・ 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度									
	・ 水生生物相の変化の内容及びその程度											
	・ 生育・生息環境の変化の内容及びその程度											
	・ 生態系の変化の内容及びその程度											
	緑	・ 重要な生物・生態系の保護・保全地域等に与える影響の程度										
・ アスリートへの生物等の影響の程度												
生活環境	騒音・振動	・ 植栽内容の変化の程度及び緑の量の変化の程度										
		・ 工事用車両の走行による道路交通騒音及び振動		○						○		
		・ 関係者等の移動による道路交通騒音及び振動						○				
		・ 建設機械等の騒音及び振動										
		・ 会場設備等からの騒音及び振動										
日影	・ 日照阻害が生じる又は改善する住宅戸数及び既存植物											
	・ 日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度											
	・ 冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度											
アメニティ・文化	景観	・ 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度										
		・ 景観形成特別地区の景観阻害又は貢献の程度										
		・ 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度										
		・ 貴重な景勝地の消滅の有無又は改変の程度										
		・ 圧迫感の変化の程度										
		・ 緑視率の変化の程度										
		・ 景観阻害要因の変化の程度										
自然との触れ合い活動の場	自然との触れ合い活動の場	・ 自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度										
		・ 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度										
		・ 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度										

注1) ○は、環境影響評価を行う事項を示す。

2) 濃い網掛け (■) は、東京2020大会全体としての広域的な視点により評価する事項、または、今後競技を対象とした環境影響評価の際に検討を行う事項であるため、本書では対象としないことを示す。

3) 薄い網掛け (□) のうち、開催中の環境影響要因は、具体的な計画が未定であり、今後の計画の熟度に応じて別途検討を行う。また、設備等の持続的稼働の環境影響要因は、本施設は仮施設であるため、恒久施設に係る環境影響要因については、想定されない。

表 8-2(2) 環境影響要因と環境影響評価の項目との関連

環境影響評価の項目		予測事項	区 分				開催前		開催中		開催後		
			施設の建設(恒久除く)	工事用車両の走行(恒久除く)	建設機械の稼働(恒久除く)	建築物の出現(恒久除く)	競技の実施	大会の運営	解体工事	工事用車両の走行	建設機械の稼働	設備等の持続的稼働	
環境項目	アメニティ・文化	歩行者空間の快適性	・ 緑の程度 ・ 歩行者及びアスリートが感じる快適性の程度						○				
		史跡・文化財	・ 会場事業地内の文化財等の現状変更の程度及びその周辺地域の文化財等の損傷等の程度										
			・ 文化財等の周辺の環境の変化の程度										
			・ 埋蔵文化財包蔵地の変更の程度										
			・ 会場事業計画地周辺の文化財等の保護・保全対策の程度 ・ 文化財等の回復の程度										
	資源・廃棄物	水利用	・ 水の効率的利用への取組・貢献の程度							○			
		廃棄物	・ 廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等							○			
		エコマテリアル	・ エコマテリアルの利用への取組・貢献の程度										
	温室効果ガス	温室効果ガス	・ 温室効果ガスの排出量及びその削減の程度							○			
		エネルギー	・ エネルギーの使用量及びその削減の程度							○			
社会経済項目	土地利用	土地利用	・ 自然地の改変・転用の有無及びその程度 ・ 未利用地の解消の有無及びその程度										
		地域分断	・ 生活動線の分断又は進展の有無及びその規模、範囲、時間及び程度										
		移転	・ 施設整備等による住宅、店舗等の移転の規模、範囲及び程度										
	社会活動	スポーツ活動	・ 国際レベルのスポーツ施設の充足、地域スポーツ団体やスポーツ参加者の増減など、スポーツ活動への影響の内容とその程度										
		文化活動	・ 文化活動拠点の増減、国際交流の活発化、情報提供のバリアフリー化の進展など、文化活動への影響の内容及びその程度										
	参加・協働	ボランティア	・ ボランティア活動の内容とその程度										
		コミュニティ	・ 地域のコミュニティの形成及び活動並びに企業の地域コミュニティへの貢献度等の内容とその程度										
		環境への意識	・ 都民等の環境への関心及び意識の内容とその程度 ・ 意識啓発のための機会の増減										
	安全・衛生・安心	安全	・ 危険物施設等からの安全性の確保の程度							○			
			・ 移動の安全のためのバリアフリー化の程度							○			
・ 電力供給の安定度										○			
衛生・防災		・ 飲料水、食品等についての安全性の確保の程度											
交通	消防・防災	・ 耐震性の程度 ・ 津波対策の程度 ・ 防火性の程度							○				
	交通渋滞	・ 交通量及び交通流の変化の程度		○						○			
	公共交通へのアクセシビリティ	・ 会場から公共交通機関までのアクセシビリティの変化の程度							○				
経済	交通安全	・ 交通安全の変化の程度							○				
	経済波及	・ 経済効果、新規ビジネスの創出及び既存ビジネスへの影響の内容並びにその程度											
	雇用	・ 創出又は消失すると思われる雇用の種類、雇用期間、雇用者数、雇用者構成等											
	事業採算性	・ 会場ごとの施設整備費、運営経費及びそれらの削減の程度											

注1) ○は、環境影響評価を行う事項を示す。  
 2) 濃い網掛け(■)は、東京2020大会全体としての広域的な視点により評価する事項、または、今後競技を対象とした環境影響評価の際に検討を行う事項であるため、本書では対象としないことを示す。  
 3) 薄い網掛け(□)のうち、開催中の環境影響要因は、具体的な計画が未定であり、今後の計画の熟度に応じて別途検討を行う。また、設備等の持続的稼働の環境影響要因は、本施設は仮施設であるため、恒久施設に係る環境影響要因については、想定されない。

表8-3 選定した項目及びその理由

項目	選定した理由
<p>大気等</p>	<p>大気等に影響を及ぼすおそれのある要因としては、開催前及び開催後における工事用車両の走行が考えられる。                      予測事項は、「大気等の状況の変化の程度」とする。                      なお、開催前及び開催後における建設機械の稼働については、本仮施設整備が主に既存施設の内装改修を行うものであり、屋外作業としては、東展示棟や東新展示棟周囲に設置する設備架台の構築、東周辺地区のバスターミナル整備等の一部の作業に留まる。バスターミナル整備についても地下躯体を構築するような大規模な土工事は実施しないため、大型の建設機械としては、設備架台周辺に鉄骨構築のためのラフタークレーンが約1か月稼働する程度となる見込みである。このため、建設機械の稼働に伴う大気汚染物質の寄与率はバックグラウンド濃度に対して僅かであり、開催前及び開催後における建設機械の稼働の影響は、ほとんどないと考えられる。</p>
<p>騒音・振動</p>	<p>騒音・振動に影響を及ぼすおそれのある要因としては、開催前及び開催後における工事用車両の走行が考えられる。                      予測事項は、「工事用車両の走行による道路交通騒音及び振動」とする。                      なお、開催前及び開催後における建設機械の稼働については、本仮施設整備が主に既存施設の内装改修を行うものであり、屋外作業としては、東展示棟や東新展示棟周囲に設置する設備架台の構築、東周辺地区のバスターミナル整備等の一部の作業に留まる。バスターミナル整備についても地下躯体を構築するような大規模な土工事は実施しないため、大型の建設機械としては、設備架台周辺に鉄骨構築のためのラフタークレーンが約1か月稼働する程度となる見込みである。また、計画地の前面には、臨港道路青海・有明南連絡道路や東京臨海新交通臨海線（ゆりかもめ）が存在し、道路交通騒音や鉄道騒音が支配的な地域である。このため、建設機械の稼働に伴う騒音及び振動の影響は、ほとんどないと考えられる。</p>
<p>交通渋滞</p>	<p>交通渋滞に影響を及ぼすおそれのある要因としては、開催前及び開催後における工事用車両の走行が考えられる。                      予測事項は、「交通量及び交通流の変化の程度」とする。</p>

表 8-4(1) 選定しなかった項目及びその理由

項目	選定しなかった理由
水質等	施設の建設に伴う排水は、下水排除基準を遵守した上で公共下水道に放流される。このことから、公共用水域及び地下水の水質等に影響を及ぼすおそれはない。
土壌	計画地は 1975 年頃（昭和 50 年頃）に竣工した埋立地に位置しているが、土地利用が始まったのは 1990 年代に入ってからである。また、計画地位置する東京ビッグサイトは、1996 年（平成 8 年）に開業しているが、それ以前については土地利用はなされていなかったことから、計画地には有害物質の取扱事業場が存在した履歴はない。 本計画では、地下躯体を構築するような大規模な土工事は実施しないため、建設発生土を搬出する予定はない。なお、今後計画変更が発生し、工事中に土壌汚染が新たに確認された場合は、速やかに土壌汚染対策を実施するとともに、フォローアップ報告書において明らかにする。
生物の生育・生息基盤	計画地は東京ビッグサイト内に位置しており、一時的に運営管理上必要最低限の植栽樹木を伐採するが、大会後は仮施設を全て撤去し、伐採した樹木と同種の樹木を復植し原状回復を行うことから、新たに生物の生育・生息基盤に著しい影響を及ぼすおそれはない。
水循環	計画地は、昭和 50 年頃に竣工した埋立地に位置しており、水循環に影響を及ぼすおそれはない。
生物・生態系	計画地は東京ビッグサイト内に位置しており、一時的に運営管理上必要最低限の植栽樹木を伐採するが、大会後は仮施設を全て撤去し、伐採した樹木と同種の樹木を復植し原状回復を行うことから、新たに生物・生態系に著しい影響を及ぼすおそれはない。
緑	計画地は東京ビッグサイト内に位置しており、一時的に運営管理上必要最低限の植栽樹木を伐採するが、大会後は仮施設を全て撤去し、伐採した樹木と同種の樹木を復植し原状回復を行うことから、新たに緑に著しい影響を及ぼすおそれはない。
日影	仮施設は、一時的に建設されるものであり、恒常的に日影に影響を及ぼすおそれはない。
景観	仮施設は、一時的に建設されるものであり、恒常的に景観に影響を及ぼすおそれはない。
自然との触れ合い活動の場	計画地は東京ビッグサイト内に位置しており、計画地内に自然との触れ合い活動の場は存在せず、本仮施設整備が主に既存施設の内装改修を行うものであるため、自然との触れ合い活動の場に変化は生じない。 計画地に隣接して有明西ふ頭公園が存在するが、自然との触れ合い活動に障害が生じないよう、仮囲いの設置や排出ガス対策型建設機械（第 2 次基準値以上）及び低騒音型の建設機械を積極的に採用するとともに、不要なアイドリングの防止に努める等、排出ガスの削減及び騒音の低減に努める計画である。 また、仮施設整備中においても有明西ふ頭公園へのアクセスは可能とする計画であり、利用経路の障害は生じない。
歩行者空間の快適性	本計画は、既設の東京ビッグサイトの敷地に仮施設を整備するものであり、公共交通機関から施設への歩行者経路に変化が生じない。
史跡・文化財	計画地は東京ビッグサイト内に位置しており、計画地内に史跡・文化財は存在しない。また、計画地は、昭和 50 年頃に竣工した埋立地に位置しており、埋蔵文化財包蔵地は存在しない。 なお、工事の実施に伴い新たに史跡・文化財が確認された場合には、フォローアップ報告書において明らかにする。
水利用	仮施設は、一時的に建設されるものであり、恒常的な水の効率的利用への取組・貢献の程度に変化は生じない。
廃棄物	本仮施設整備が主に既存施設の内装改修を行うものであり、地下躯体を構築するような大規模な土工事や施設の建設工事を行わないことから、建設廃棄物の発生量は僅かである。 これらの仮施設整備に伴い発生する廃棄物については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年法律第 137 号）、資源の有効な利用の促進に関する法律（平成 3 年法律第 48 号）、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成 12 年法律第 104 号）等に基づき、再生利用可能な廃棄物については積極的に再資源化に努め、再生利用が困難なものについては適切な処理を行う計画である。 また、大会後は、仮施設の資材等を可能な限り再利用する計画を検討中である。 これらを踏まえ、大会前の仮施設整備に伴う建設廃棄物の再資源化等及び大会後の資材等の再利用等の取組みについては、他の会場と合わせて、全体計画で評価する。

表 8-4(2) 選定しなかった項目及びその理由

項目	選定しなかった理由
エコマテリアル	仮施設整備に当たっては、組織委員会による「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 持続可能性に配慮した調達コード」や「持続可能性に配慮した木材の調達基準」に基づき資材等を調達する計画を検討中であることから、その計画を踏まえ、他の会場と合わせて、全体計画で評価する。
温室効果ガス	仮施設は、一時的に建設されるものであり、恒常的な温室効果ガス排出量に変化は生じない。
エネルギー	仮施設は、一時的に建設されるものであり、恒常的なエネルギー使用量に変化は生じない。
土地利用	計画地は東京ビッグサイト内に位置しており、土地利用の変化は生じない。
地域分断	計画地は東京ビッグサイト内に位置しており、新たな地域分断は生じない。
移転	計画地は東京ビッグサイト内に位置しており、移転は生じない。
スポーツ活動	東京 2020 大会の実施がスポーツ活動に及ぼす影響については、個別の会場等ごとに予測せず全体計画で評価する。
文化活動	東京 2020 大会の実施が文化活動に及ぼす影響については、個別の会場等ごとに予測せず全体計画で評価する。
ボランティア	東京 2020 大会の実施がボランティア活動に及ぼす影響については、個別の会場等ごとに予測せず全体計画で評価する。
コミュニティ	東京 2020 大会の実施が地域のコミュニティに及ぼす影響については、個別の会場等ごとに予測せず全体計画で評価する。
環境への意識	東京 2020 大会の実施が環境への意識に及ぼす影響については、個別の会場等ごとに予測せず全体計画で評価する。
安全	仮施設は、一時的に建設されるものであり、施設の側面から捉えた地域としての安全性に変化は生じない。
衛生	東京 2020 大会の実施における飲料水や食品等についての安全性については、個別の会場等ごとに予測せず全体計画で評価する。
消防・防災	仮施設は、一時的に建設されるものであり、火災、地震及び津波からの安全性に変化は生じない。
公共交通へのアクセシビリティ	計画地は東京ビッグサイト内に位置しており、工事中（一部の工事期間は除く）は一般利用者は来場しない。先行工事期間のほか、MPC（会議棟・西展示棟）工事期間前については、一般利用が可能であるため、工事エリアへの立入り規制を行うとともに、施設内の適切な誘導により来場者のアクセス性を確保する計画である。
交通安全	計画地周辺の公共交通機関への利用経路が、いずれも歩道や歩道橋によって歩車分離が確保されていることから、交通安全の変化は生じない。 なお、工事用車両の走行ルートの一部が通学路と交差するが、既に工事を実施している他の有明地区の施設同様に交差点進入時の安全走行を徹底し、児童の登下校に配慮する。また、工事用車両の走行に当たっては、沿道環境への配慮のため、沿道に比較的住宅等が存在しない幹線道路等を極力利用するほか、安全走行の徹底、市街地での待機等をすることがないように、運転者への指導を徹底する計画である。
経済波及	東京 2020 大会の実施による経済波及効果については、個別の会場等ごとに予測せず全体計画で評価する。
雇用	東京 2020 大会の実施による雇用への影響については、個別の会場等ごとに予測せず全体計画で評価する。
事業採算性	東京 2020 大会の実施による事業採算性については、全体計画の環境影響評価の中で個々の会場ごとに評価する。